



「学びのコントローラー」を自らの手に ～「ゆとり」と「見通し」をもって、自律した学び手へ～

教務部 高橋直也

2026年がスタートして、1ヶ月が経ちました。厳しい寒さが続いておりますが、3年生は、受験という大きな目標に向かって地道に取り組んでいます。また、1・2年生も次年度に向けて理想の自分に少しでも近づけるように、一人一人が自分なりの目標をもって生活しています。

中学校生活における学習や行事は、決してゴールではなく、あくまでも成長の過程における一つの通過点です。大切なのは、その経験を通じて「自ら考え、判断し、行動できる力」を身に付けていくことだと思います。札幌市では、この姿を「学びのコントローラーをもっているのは子ども自身」という言葉で示しています。学習の主導権を親や先生など周りの大人に委ねるのではなく、自分自身の学びや成長を自分自身でコントロールしていく「主体的な学び手」への転換を目指しています。本校では、生徒たちがこの「コントローラー」をしっかりと握り、主体的に学校生活を送ることができるよう、今年度より「全教科2期制」による評価を導入しました。昨年度までは5教科を3期制で評価しておりましたが、評価のサイクルを緩やかにすることで、生徒一人一人が「ゆとり」と「見通し」をもって学習に取り組める環境を整えることがねらいです。

また、札幌市では右に示してある「『学ぶ力』の育成に向けた五つのポイント」を柱として教育活動を推進しています。

本校では、特に5つ目に示されている「生活を自らコントロールする力」について、「フォーサイト手帳」の活用を進めています。2期制によって生まれた時間的なゆとりを活かし、自ら予定を管理し、見通しをもって実行に移していく。この繰り返しのプロセスこそが、学びのコントローラーを自在に操作する力を養うと考えています。

子どもが自らコントローラーを握ろうとする時、最初は試行錯誤の連続です。時には計画が崩れ、失敗することもあるでしょう。しかし、その経験こそが自立に向けた「本物の学び」となります。私たち大人は先回りして答えを与えるのではなく、生徒が自ら修正し、前へ進もうとする姿を粘り強く支える「伴走者」でありたいと考えています。

ご家庭におかれましても、「今日はどんな見通しを立てたの?」といった温かな声掛けで、お子様の自己決定を後押ししていただければ幸いです。一人一人が自らの成長に誇りを持ち、しなやかに未来を切り拓いていけるよう、今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力を願い申し上げます。

- ① 難しいことにも挑戦する意欲を伸ばす
- ② 「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」を身に付ける
- ③ 意味理解を伴った知識の習得と、使いこなす力を伸ばす
- ④ 自分の「伸び」を実感して、新たな目標を持てるようにする
- ⑤ 生活を自らコントロールする力を育む

令和7年度
札幌市学校教育（冊子）



このパンフレットの詳細版として、札幌らしい学校教育の目指す方向性や施策が掲載されています。

【札幌市の教育が目指す人間像】

自立した札幌人

- ・未来に向かって新たな価値を創造し、主体的に学び続ける人
- ・自他のよさや可能性を認め合い、しなやかに自分らしさを発揮する人
- ・ふるさと札幌に誇りをもち、持続可能な社会の発展に向けて行動する人



『将来の夢のために』

生徒代表

皆さんには将来の夢や目標がありますか。私には、学校の先生になるという将来の夢があります。2年生は、2学期に職場体験がありました。職場体験を通して、より詳しく先生の仕事について学ぶことができ、私が先生になるために足りない力を知ることができました。その中から3学期に身に付けたいことを2つお話しします。

1つ目は、「計画力」です。先生の仕事はとても忙しく、事前に予定を決めておくといいことがわかりました。そのため、3学期では日曜日の内に1週間の予定をフォーサイトに書き込み、「計画力」を高めていきたいです。

2つ目は、「積極性」です。先生方は教える身として、常に積極的に生徒と関わっていました。そのため、3学期では授業で手を挙げ、自ら発言する回数を増やして、自分から授業に関わっていき、「積極性」を高めていきたいです。

～3学期始業式より～



8組作業製品校内販売について

8組生徒が日常の作業学習で制作した製品（箸置きや小皿などの窯業製品やランチマットや巾着などの縫工製品）を、2月20日（金）11:00～12:00にIT多目的室で販売いたします。例年行っている販売会ですが、一つ一つ生徒がていねいに作りあげており、素晴らしい出来の作品ばかりです。お時間がございましたら、ぜひお越しください。